

漁網で編む都市と地方のネットワーク

「行くたびに心惹かれる建築」とは、訪れるたびに新しい発見や感動をもたらす場所であると考えます。日常の中で地域の文化や自然、人々との関わりを通じて変化し、豊かな体験を生み出す空間こそが、人々を魅了し続けるのではないかと。

本提案では、地域の漁網産業と都市部に本社を置くアウトドアメーカーが連携するサテライトオフィスを計画する。この地域に都会から移り住む企業の社員は、地域の技術や人、自然と共に成長し、漁網技術を活かした製品を開発していく。

このオフィスは、地域の誇りや伝統を未来に引き継ぐ場であり、子どもたちがその技術に触れ、地域全体が新たな価値を生み出す場となる。地域と都市がつながり、共に成長し続けるこの空間は、訪れるたびに新たな体験をもたらすだろう。

01 計画敷地 - 愛知県西尾市「愛知こどもの国」 -

敷地は、愛知県西尾市東幡豆町に位置する、山全体が公園である「愛知こどもの国」の敷地内の一部。大と海が隣接し、敷地からは三河湾が一望できる自然豊かな場所である。今年50周年を迎える公園だが、遊びに来る親子やハイキングをする方、キャンプ場利用者などが訪れ、にぎわいを生む。敷地内および周辺には複数のキャンプ場があり、休日に自然を楽しむ人が増加している。



02 地域の条件を活かした伝統産業

西尾市は三河湾に面しており、その立地を活かした地場産業が発達してきた。この地域は昔から漁業中心の生活が営まれており、特に漁網産業は戦前からの歴史をもつ伝統的な産業である。しかし、地域の高齢化が進み就業者の減少問題やまちの一体感は失われつつある。

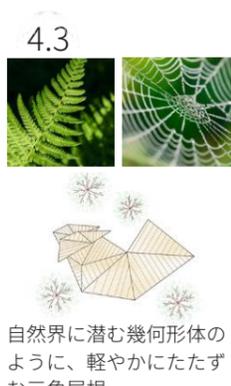
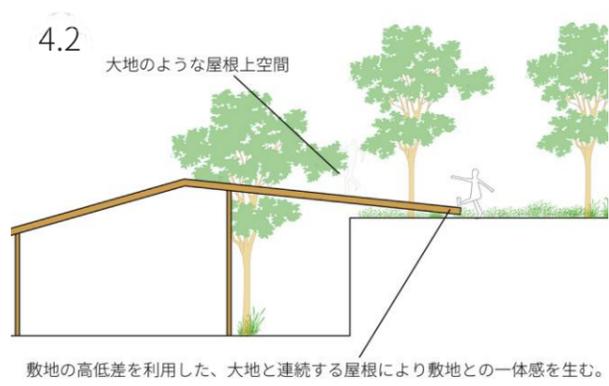
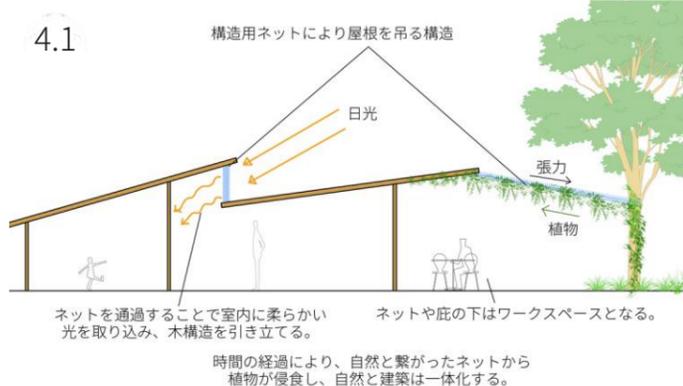


03 伝統産業×都市企業

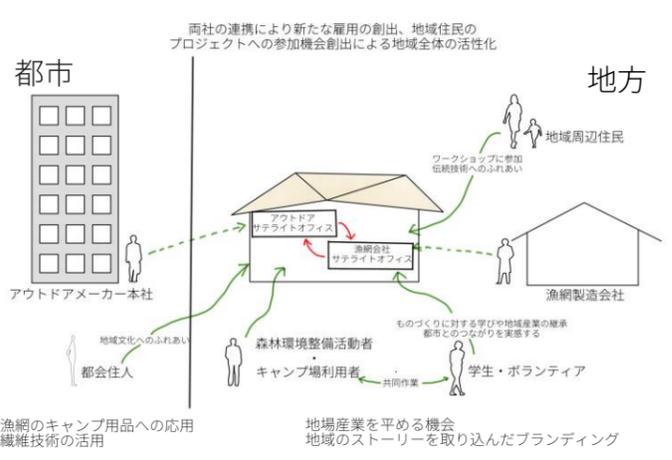
漁網オフィスとアウトドアオフィスをまちの起点となる場所に設けることで、企業と地域住民の間につながりが生まれる。企業同士で漁網技術をアウトドア用品に応用し、製品開発しながら協力する。来訪者はイベントや地域の技術、自然を体験し、企業活動に触れることができる。これにより、地域文化と企業の取り組みが一体となって、共に学び、成長できる場が生まれる。



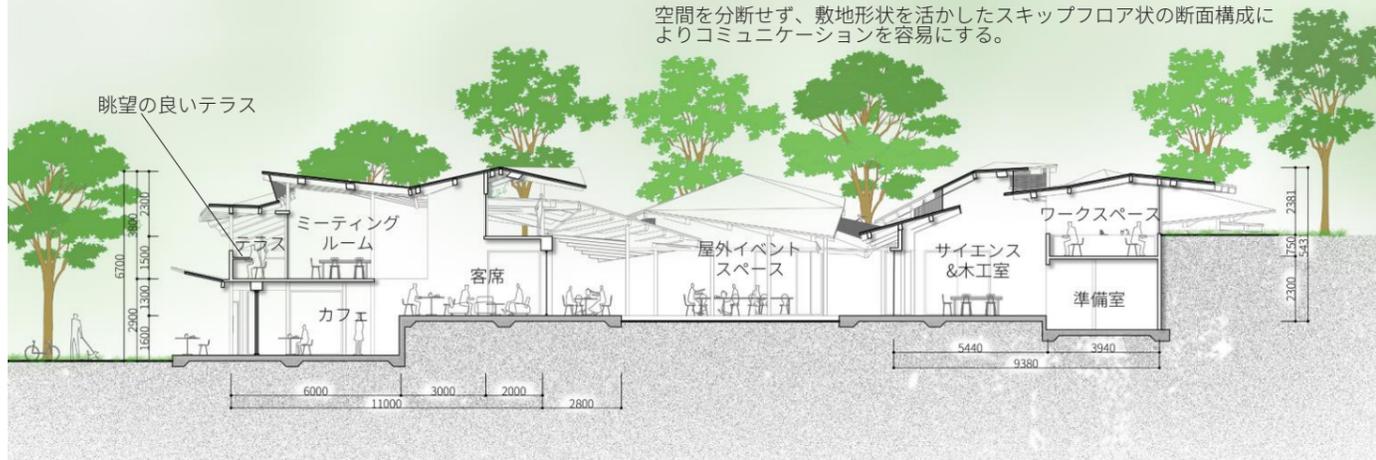
04 形態ダイアグラム - 漁網技術を活用した自然と一体化する三角屋根 -



05 地方と都市のつながり



06 断面計画 1/250



07 平面計画 1/250



2F 平面計画 1/300

